



K120.73

36

2

緒 言

國定の小學讀本中の韻文は、さうがに教育的に出來て居て、唱歌教材として思ふ。余は是等韻文に曲節を附して、余が春8月30日同上意見を持して居るので、文部省の許可を経て茲に本書を公にせざることとなりました。

惟ふに、このごろ唱歌書類が續々と出版されます故、是等の教材を各学年の程度に合せて取捨選擇するは、随分手數のかかる事である。然るに、國定の小學讀本中の韻文は、程度を逐うて出來て居る事は勿論、國語教授で、その意義をも兒童が十分會得して居るから、甚くとも、歌詞だ

けには、前述のよき心配のなきのみならず、児童をして、眞の興味を起させ、所謂教育的教授が出来ることと思ひます。

余、數年小學教育に從事して、聊か唱歌教授上に経験もある故、この書を公にして、大方の批評を乞ふ事となつた。若し、この書が、唱歌界に幾分なり貢献する所があるならば、余の光榮とする所であります。

猶、本書を編纂するについて、編者の用意を一言すれば、

一、曲節は、余が數年の實驗に徴して、児童の嗜好に鑑み、その程度を考へて、順次、音樂上の發達を圖ることに力め、凡て、前後の連絡を保つようになつてあります。

一、韻文には、朗讀的と唱歌的との二種がある。例へば、國定の高等小學讀本中、一の巻にある「浦島子」の如きは、朗讀的韻文であるから

本書にはこれを省いたのであります。

一、本學年にも、四度七度の兩音を自在に唱へしめ、かつ六度音程、七度音程と、二個の臨時音とを加へ、又三拍子の曲節二個を入れたれば、教授者は茲に注意されんことを望みます。

一、本書中、一音符に二文字を配當してあるのは、その音長を二等分するのであります。

明治三十七年十二月二十日

編者識ナ

國定讀本唱歌

高等科二學年

目次

奈良	一
須磨明石	五
海國男子	九
日光	三
遠洋漁業	五
水の變態	一九
白虎隊	二十四

奈良

(と調三拍子)

中等 = 感情ヲ以テ

花のごとくに、
奈良榮えたる
千歳の後に、
名所舊蹟數多き
中にも名高き
東大寺。

寺にまつれる
その建立は聖武帝。
五丈三尺ある
像をすゑたる佛殿の
いらか雲非に、
そびえたり。

三

奈良

(と調三拍子)

中等 = 感情ヲ以テ

ハナラニマツレ
ニダクルニサカイ
エタシノニ
ナラノミンリュ
ノミヤコノモハ
カムゲテニ
トジョーサンジャ
ニナガスノアガ
メニシヨヌセキ
カブツホンキ
ナカニカクモ
カキニソダエジ

須磨明石

(と調四拍子)

遅クナク

爽快

5. 5 3 1 | 7 1 2 3 2 1 | 6. 5 6 1 | 2-0 |
 1. マー ツハミードーリニスナシロク
 2. ホカ ケテミイグールニトナシホラ
 3. ウミノアーナタニトナシホラ
 4. 4 3 1 | 5 6 5 4 3 2 | 1. 3 5 5 | 1-0 |
 フーケイスグールハスアマカハラタマ
 アサウミニギークールハスアマカハラタマ
 ミユルリーリークールハスアマカハラタマ
 2. 3 2 1 | 3 2 2 0 | 5. 4 3 6 | 5-0 |
 イソカベニノキイシセデロントヒトエロロネ
 アカヨシキイシセデロントヒトエロロネ
 1. 2 3 5 | 4 3 2 1 2 5 | 1 3 2 3 | 1-0 ||
 マドモモナガメノヒトリヨ
 ヤシズモモナガメノヒトリヨ
 マスモモナガメノヒトリヨ

四

一
松は緑に、
須磨明石
砂白く、
風景すぐる
須磨の浦。
磯邊に出てて、
貝拾ふ
子どももながめの
一つなり。

五

二

帆ほかけて出づる

舟多く、

朝海にぎはふ

明石あか瀬しがた。

明石の城しろも、

人麻呂ひとまろの

社も木の間に、

見ゆるなり。

三

海のあなたに、

いと近く、

見ゆる陸地は

淡路あわじ島。

通ふ汽船の

笛えいの音おとも、

涼しく、波に、

ひびくなり。

七

六

海國男子

(ヘ調二拍子)

稍早々

活潑

The musical score consists of four staves of music. The first staff starts with a treble clef, a G major chord, and a 2/4 time signature. The lyrics are:
1. フ 1 2 | 3. 3 2 1 | 6. 6 5 3 | 5. 0 |
ア ガ ノ ス カ ム イ ニ コ ポ リ ニ テ ウ マ ク ダ ノ ル
2. ヨ 1 2 | 3. 3 2 1 | 6. 6 5 3 | 5. 0 |
コ ノ ス カ ム イ ニ コ ポ リ ニ テ ウ マ ク ダ ノ ル

The second staff continues with a treble clef, a G major chord, and a 2/4 time signature. The lyrics are:
1. フ 1 2 | 3. 3 5 5 | 2. 1 2 3 | 2. 0 |
シ メ ッ ナ ハ ペ ハ ド ミ ハ カ リ ロ ニ ヴ ベ ダ メ
2. ヨ 1 2 | 3. 3 5 5 | 2. 1 2 3 | 2. 0 |
コ ノ ス カ ム イ ニ コ ポ リ ニ テ ウ マ ク ダ ノ ル

The third staff continues with a treble clef, a G major chord, and a 2/4 time signature. The lyrics are:
3. 4 5 5 | 3. 4 5 5 | 6. 6 5 4 | 5. 0 |
イ ブ ミ カ ノ ニ チ エ タ ノ ニ ガ モ サ ナ ハ カ ド ザ シ
4. 4 5 5 | 3. 4 5 5 | 6. 6 5 4 | 5. 0 |
イ ブ ミ カ ノ ニ チ エ タ ノ ニ ガ モ サ ナ ハ カ ド ザ シ

The fourth staff continues with a treble clef, a G major chord, and a 2/4 time signature. The lyrics are:
3. 4 5 5 | 1. 2 3 5 | 3. 3 2 7 | 1. 0 |
カ ラ マ デ ヌ 一 ス カ ス リ マ ゴ ミ ザ ナ ド ア ム プ シ
4. 4 5 5 | 1. 2 3 5 | 3. 3 2 7 | 1. 0 |
カ ラ マ デ ヌ 一 ス カ ス リ マ ゴ ミ ザ ナ ド ア ム プ シ

八

一　わが住む日本帝國の
四面は海に囲まれて、
いづくに行くにも、棹楫を
借りて、進まん道あらず。
二　この海國に生れたる
日本男子は、國のため、

九

波路なみぢをおのが家として、

住まん覺悟を定むべし。

山なす、沖の大波も、

恐れず、進む勇氣こそ、

幼き時の練習に、

よりて、えらるる身の寶たから。

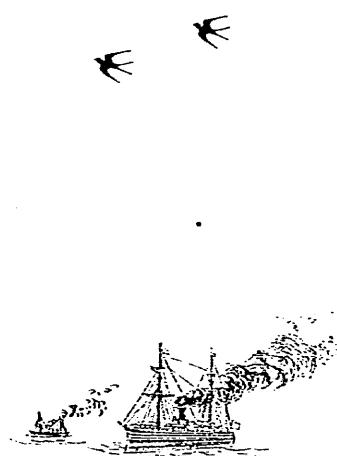
泳の業わざも怠るな。

ぼーとの遊もこころみよ。

四

日本は海の國なるぞ。

海はわれらの家なるぞ。』



日 光

一 紀州の那智ともろともに、
その名知られし日光の
華嚴瀧は、その高さ
雷ひびき、雪くだけ、
飛び散る泡は白布を、
落ち来る水は三十餘丈ありといふ。

二 空にかけたるこゝちして、
飛び散る泡は谷にみつ。

日 光
(と調三拍子)

中等 =

麗ハシク

1. キ シュ 一 ノ ナ ナ ト 一 モ ロ ト モ ニ ナ
2. オ チ ク ル ミ ブ ハ レ シ ロ プ ハ メ ニ ナ

ソ フ ラ ナ ニ シ カ ラ タ レ シ ル ニ コ ツ フ ニ シ ナ テ

ケ リ ゴ ミ ブ ナ リ タ ヒ ピ ハ リ ソ ュ ノ キ タ リ カ ダ サ ケ

サ ト ピ ジ ュ ー ヨ ジ ポ 一 ア リ ニ ト ニ イ ム フ ナ ル ア リ ハ ハ ッ パ ニ

遠洋漁業

(ヘ調四拍子)

早 ク

快 活 ニ

The musical score consists of four staves of music in G major, common time. The vocal line is supported by a piano accompaniment. The lyrics are written in both Romanized notation (e.g., 5, 3, 2, 1, 6, 5, 5, 3, 5) and Japanese hiragana. The score is divided into two sections: 'Early' (早ク) and 'Fast Joy' (快活ニ). The lyrics are as follows:

1. ニッカボルダナシミトハタマレクヘモ
2. フコキクマノクミカチセバハカラルクベトジモ

1. フフコキクマノクミカチセバハカラルクベトジモ
2. ウキミタニニムジンミナミトコミギアイテテ

1. ナミナドニルユリカレザモトリコロナタシメ

十四

- 日本男子と生れては、
富國の道をはかるべし。
海に無盡の富ありて、
波路に行かれぬ所なし。
- 怒れる波は高くとも、
吹きまく風はあらくとも、

十五

北に、南に漕ぎ出でて、

すなどるわざも國のため。

三、危き道をおかさずば、

勝れし功は立てられじ、

島かけ見えぬ所まで、

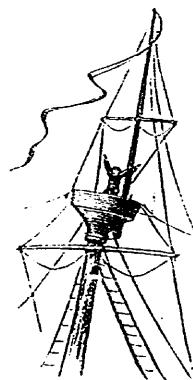
漕げや、家なるわが舟を。

四、種々の寶たからは海にあり。

取れど、捨へどつきもせじ。

思へや、獲物えものうち積みて、

歸る波路の愉快ゆきわとを。



水の變態

(變は調四拍子)

餘リ早クナク 優美 =

5 5 3 1 | 2 - 0 | 3 3 5 | 6 6 5 5
 1. ヤクノアル ノルニノ リネギキ ノノモノ
 2. タノクノダタメヨ キタハノ カーイ
 3. ケフ マソナル ハカタシ ミモナツ
 4. フタノク ナカタシ ナカバヅ ナニモノ

i i 7 6 | 5 - 0 | 6 6 5 3 | 2 2 1 2
 フタノク ミナエ テレテハ トーネス
 フタノク ミナエ ケカレク クカラモ
 フタノク ミナエ シビダユ ヒヒウア
 フタノク ミナエ ハグルニ シュナキ
 フタノク ミナエ ハグルニ シュナキ

6 - 1 2 | 3 - 5 - | 2 - 1 | 1 - 0 |
 カーイ カミシハノ ナーイ リーフー
 ルー アーナキリカ ハーイ フー
 ブー ブー カーイ フー
 ブー ブー カーイ リキレン

十八

水の變態

霧。

一 を山田の霧の中道ふみ分けて、

人來と見しはかゝしななりけり。

雲。

二 あけわたるたかねの雲にたなびかれ、
 光消えゆく弓はりの月。

雨。

三 けふの雨にはぎも、をばなもうなだれて、
うれへがほなる秋の夕暮。

雪。

四 ふくる夜ののきのしづくのたえゆくは、
雨もや雪に降りかはるらん。

霰あられ

五 むら雲のたえまに、星は見えながら、
夜行く袖に散る霰あられかな。

露。

六 白玉の秋の木の葉にやどれりと

見ゆるは露のはかるなりけり。

霜。

七 朝日さすかたへは消えて、のき高き
家。かけに殘る霜の寒けど。



自 虎 隊

(い調四拍子)

早 夕

悲壯二

自 虎 隊

(つづき)

白虎隊

敵のごとくみだれくる、
敵の弾丸ひきうけて、
命を塵と戰ひし、

三十七の勇少年。

これぞ會津の落城に、
その名聞えし白虎隊。

味方少なく、敵多く、

日は暮れはてゝ、雨暗し。

二

はやる勇氣はたわまねど、

疲れし身をばいかにせん。

倒るゝ屍流るゝ血。

たのむ矢玉もつきはてぬ。

三 残るはわづかに十六士、

「一たび、あとに立ち歸り、

主君の最後にあはばや」と、

飯盛山によぢのぼり、

見れば、早くも城落ちて、

焰ほのほは天をこがしたり。

四 「臣子の務はこれまでぞ。

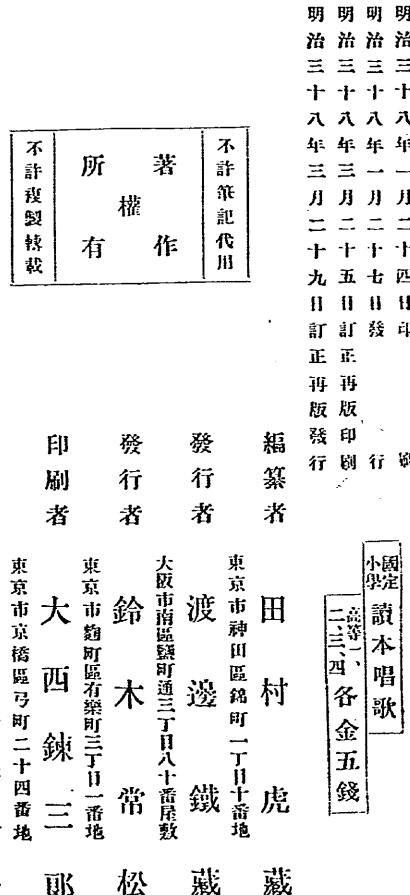
いで。いさぎよく死すべし」と、

枕まくらならべて、ころろよく、

及まに伏し、物語、

傳へて、今に、美談とす。

散りたる花のかんばしだ。



發行所

東京市神田區錦町一丁目
大阪市南區鶴町通三丁目

積修善文館
發行所

